

大阪大学・チュラーロンコーン大学 日本文学国際研究交流集会 — 交叉する時空 —

日時：2010年3月11日（木）午後1時00分より

会場：待兼山会館2F会議室（大阪大学豊中キャンパス）

*この研究交流集会は、タイのチュラーロンコーン大学と大阪大学の日本文学研究者が集い、大学院生を中心に、研究交流の場を持つというものです。

*参加は自由です。さまざまなお関心から、活発な議論を展開したいと思っています。

〈第一ブロック〉

①Marin Viriyapongpanich（マーリン・ヴィリヤポンパーニッチ）「『枕草子』に見られる「顔」に関する記述について」（チュラーロンコーン大学大学院生）

②宮川真弥（Shinya Miyagawa）「『枕草子春曙抄』『清少納言枕草紙抄』の「原拠本」について—『徒然草文段抄』所引『枕草子』を手掛りに—」（大阪大学大学院生）

③Penporn Kaewfoongrungsi（ペンポーン・ケオフォンランシイー）「昔話を素材とした芥川龍之介作品の特徴—桃太郎を中心として」（チュラーロンコーン大学大学院生）

ディスカサント：荒木浩（大阪大学教授）

〈第二ブロック〉

④カナパット・ルーンピロム（Kanapat Ruenpirom）「『曾我物語』における北条政子の説話—苦悩の克服の様相」（チュラーロンコーン大学大学院終了、大阪大学大学院研究生）

⑤Puttarak Kate-em（プッタラク・ケイトエーム）「『潮騒』に見られる共同体社会の変化とその影響」（チュラーロンコーン大学大学院生）

⑥モハammad・モインウッディン（Md Moinuddin）「志賀直哉『十一月三日午後の事』をめぐって—他者へのまなざし—」（大阪大学大学院生）

ディスカサント：莊千慧（大阪大学大学院生）

〈第三ブロック〉

⑦Jittapa Nitisiri（チッターパー・ニティスィリ）「『二百年の子供』における二項対立、時間と周縁の力」（チュラーロンコーン大学大学院生）

⑧カリナ・ナルバンディアン（Karina Nalbandian）「*The Tale of Genji*における変更—『源氏物語』の三つの英訳」（大阪大学大学院生）

⑨Thanjuta Kamhaeng（タンチュター・カムヘン）「江國香織の小説における「干渉者」」（チュラーロンコーン大学大学院生）

ディスカサント：ホルカ・イリナ（大阪大学大学院生・大阪大学特任助教）

〈第四ブロック〉

⑩Namthip Methasate（ナムティップ・メータセート）「日本文学におけるタイ表象」（チュラーロンコーン大学大学院生）

閉会の挨拶 アッタヤ・スワンラダー（Attaya Suwanrada）

（チュラーロンコーン大学助教授・大阪大学外国人招へい研究員）

司会・進行：丹下暖子（大阪大学大学院生）、村山識（大阪大学大学院生・日本学術振興会特別研究員）

主催：大阪大学日本文学研究室・チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座

共催：大阪大学文学研究科・国際交流基金・大阪大学古代中世文学研究会

連絡先：荒木浩研究室